

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	いやなが保育園
-----	---------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「やさいのおなか」 2歳児

<テーマの設定理由>

当保育園周辺は、野菜畑が多い地域環境なので、子どもたちは野菜の形状や色に関心が高い。野菜の内側にも直接触れ確かめる体験を通じて、「食」や「いのち」への気づきにつなげたいと考えた。

2. 活動スケジュール

【4月】テーマ決定、問いの検討、環境デザインの検討、探究活動の実践/5回

- ・「やさいのおなか」の絵本を見る。
- ・タケノコ（皮むき・断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ）
- ・イチゴ（授粉を見る・収穫し感触やにおいをかぐ・断面をスタンプ）

【5月】探究活動の実践/5回

- ・ナス・オクラ・ピーマン・プチトマト・ゴーヤ（苗を植え・水やりをして観察）
- ・ラディッシュ・カブ（断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ・食べる）
- ・もち米（田植え）

【6月】探究活動の実践/3回

- ・ナス・オクラ・ピーマン・プチトマト・ゴーヤ（収穫する・触る・においをかぐ・断面をスタンプ）
- ・キャベツ（断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ）
- ・トウモロコシ（皮むき・断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ・食べる）

【7月】探究活動の実践/3回

- ・キュウリ・白ナス・カボチャ（断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ・食べる）
- ・ジャガイモ（収穫・触る・においをかぐ・断面をスタンプ）
- ・スイカ（スイカ割り・断面を見る・においをかぐ・食べる）

【9月】探究活動の実践/2回

- ・ニンジン（種まき）
- ・もち米（稲刈りをする）

【10月】途中経過のまとめ、探究活動の実践/2回

- ・ニンジン（収穫・触る・においをかぐ・断面をスタンプ）
- ・ハクサイ（断面に触れる・においをかぐ・断面をスタンプ）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵本 「やさいのおなか」 福音館

【野菜を栽培する】イチゴ、ナス、オクラ、ピーマン、プチトマト、ゴーヤの苗
プランター、バケツ、如雨露、支柱、土、すのこ

【野菜のおなか（断面）を観察する】

絵の具、筆、パレット、画用紙

【環境の設定】

- ・子どもたちが水やりしやすく、室内からいつでも生長が見えるような場所に置いた。
- ・トマトは水分が多いので断面をスタンプするのは不向きのためプチトマトを育てた。
- ・プチトマトは窒息防止のため、園外で育てた。子どもが触る際は保育者が傍に付き口に入れないよう見守った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

季節が進むに合わせて、様々な野菜やもち米を育てた。外見とともに野菜のおなか（断面）を観察し、興味関心を深め、楽しみながら探究した。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- ・タケノコやピーマンの「おなか」を観察したときは、「すんすんする」「このにおいやだ」と顔をしかめながら言っていた。「大きい部屋と小さい部屋があるね」と保育者が声をかけると、指を入れて大きさや感触を確かめようとしていた。
- ・イチゴは、花や青い実の段階ではわからないようだったが、生長し実が赤くなると「いちごだ!」「いいにおい」「おいしそう」と言いながら葉の裏まで探す姿が見られた。また、イチゴの断面をみてスタンプを楽しんだ。
- ・白ナスやラディッシュなど、なじみのない野菜にも興味を持って手を伸ばしたり匂いを嗅ごうとしていた。調理員が白ナスを加熱すると白い皮が紫に変化するのをじっとよく見ていた。
- ・始めのうちは野菜の栽培に興味なかった子も次第に苗が生長し実がなることで興味をもつようになった。
- ・みんなで水やりを楽しみながら野菜の生長を感じ、「おおきくなっている」「たべたいな」「つやつやしている」などと友達同士でささやきあう姿も見られた。夏場には保育者が水やりをしている様子を窓にくっつきながら見て「そこになすがあるよ」と保育者に伝え成長を楽しみにしていた。
- ・断面のスタンプの形をじっと見つめ、その形の面白さを感じることができた。ナスを「バナナみたい」ピーマンを「ねこちゃんみたい」と自由な発想や発見をしていた。いつもお店や畑で見ている形とは違ういびつな形の野菜を見て「なんでまるくないの?」と疑問を感じる子もいた。
- ・もち米の稲刈りでは、稲の根元をはさみで切る体験をした。根元が固く、真剣な表情で少しずつ収穫をした。



イチゴのスタンプ



野菜の水やり



とうもろこしの皮むき



もち米の収穫

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ・苗を見ても生長した野菜の姿と結びつかなかった子どもたちが、生長の過程を一緒に見ていくうちに、少しずつ興味を持ち、収穫の喜びを感じられるようになっていく姿を見ることができた。実際に自分たちで触れた野菜を食べるときには、「これむいたやつだね（タケノコ・トウモロコシ）」と嬉しそうに料理の中から探して食べたり、「なすだいすき」と言って嬉しそうに食べたりする姿が見られた。また、今まで食べなかったもの（芋もち）を食べてみようとする子もおり、野菜を身近に感じることで食への意欲が育まれていった。さらに、断面を見ることで、2歳児ならではの豊かな発想や疑問に、面白さを皆で共有した。「この野菜はどんな「おなか」かな?」と、その楽しさを保育者や友達と共有でき次の活動に期待する姿があった。
- ・栽培にあたっては、子どもが水やりをしやすい場所について職員同士で話し合い、検討を重ねて決定した。状況に応じて場所を移動したことで、安全に、一人ひとりの子どもが満足するまで活動に取り組むことができた。真夏は暑さのため子どもたちが水やりをすることを回避したが、子どもたちの目に入りやすい場所（保育室窓の前）に栽培スペースを設けたり、職員が水やりを行う時間帯を工夫したりすることで、子どもたちが野菜の生長の様子を日々感じられるようにした。
- ・さまざまな旬の野菜を収穫したり、近隣の農家からいただいたりすることで、さまざまな種類の野菜を実際に見て触れ、重さを感じる体験をすることができた。ジャガイモは前年度に植えた経験があり、進級したことでより興味を深めたようだった。一方で、ゴーヤは今年の酷暑の影響で生育を維持するのが難しかった。
- ・刈り取ったもち米を子どもたちの見える場所に干し、脱穀などの活動も一緒に楽しめるようにした。